

## 坂本論文へのコメント

星野崇宏  
(東京大学教養学部)

### 総括的なコメント

○本研究は日本におけるパネル調査データを利用して「一人親かどうか」「弱齢出産かどうか」といった家庭環境が子供の達成学歴や就業に及ぼす影響について、単なる群間差ではなく因果効果の推定に踏み込んだという点について大いに評価に値する。

また、解析手法としても、近年欧米の政策評価や医学疫学分野の研究で利用されるような先端的手法を積極的に利用している点で優れていると考える。

○分析の結果は「一人親かどうか」の効果は見られなかったという点で、これまでの研究結果と異なる。

○但し、既存のデータを利用した分析であることから、本来の研究関心において重要である変数のいくつかが測定されていないことに伴う問題がある。具体的には、「一人親かどうか」「弱齢出産かどうか」の因果効果を推定する際に影響を除去すべき交絡要因・共変量として筆者は少年期の家庭の経済状況の重要性を指摘しているが、実際の解析で利用された共変量としては父親と母親の「生年」「学歴」及び「父親の職業」「小中学校当事の居住都道府県」のみであり、家庭の経済状況に関する変数が利用されていない。例えば日本版一般社会調査においては少年期の経済状況を回顧式で聞く項目が用意されているが、本パネル調査では調査されておらず、利用できない。しかし、両親の年齢や学歴、職業を経済状況の代理変数として利用することができるか疑問である。実際に **Logit Model** の決定係数は極めて低い。別の代理変数は利用できないのであろうか？

○これに関連して、共変量がこのように少ないのであれば、共変量も独立変数として利用する単純なロジスティック回帰分析モデルを利用してもあまり結果が変わらないという報告がなされている。

○VI 節で述べられている通り、政策によって操作可能な変数（具体的には給付など）の効果がどの程度のものであるかについては、今後別のデータを用いた検討がされるとよいと考える。

## 個別的なコメント

○III 節 2 の変数の説明において、独立変数と従属変数は説明されているが、調整に利用する共変量が明記されておらず (IV の「記述統計による比較」において記載されているが)、この記載法は読み進めるにあたり、分かりにくく感じた。

○「身体的・精神的苦痛尺度」の構成については、計量心理学的な観点からはやや疑問に感じる。尺度の妥当性・信頼性の報告をして頂くことが望ましい。

○同様に初職についても、単に非正規雇用か否かを議論するのではなく、たとえば SSM 調査で計算された職業威信スコアなどを利用して連続変数として考える方が意味はあるのではないか？

○回顧式に頼らない、家族を追跡する形のパネル調査(NLSY ではその部分サンプルの子供に対して認知能力のテストまで行っている)の結果の方が測定値の妥当性と言う点で望ましく、(これは本論文そのものに対するコメントではないが) 本パネル調査においても同様の努力が今後なされることが望まれる。

○一人親の場合には両親のうち片親 (多くは父親) に関する調査項目への回答が非常に信頼性が低いと思われる。この点は重要と考えるが、論文では **Logit Selection** の推計結果の表において少し触れているのみである。

○式(5)の  $0 \leq u \leq 1$  は  $u = 0, 1$  の間違いではないか？

○V 節 3 節後半は既知の結果であるので、引用ですませるか、付録に回すほうがよいと考えられる。

○ATT が有意でないモデルについては感度分析を行わなかったとあるが、**Hidden Covariate** の影響により本来は有意であるが、これを考慮しないと有意にならないという可能性があるため、実施したほうがよいと思われる。

○誤字脱字がところどころで見られるので、チェックをして頂きたい。